

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年 10月9日

【評価実施概要】

事業所番号	4271401269		
法人名	有限会社 薫風		
事業所名	グループホーム 陽だまりの家		
所在地	〒859-2211 長崎県南島原市西有家町里坊109番地 (電話)0957-82-0847		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成19年9月25日	評価確定日	平成19年10月22日

【情報提供票より】(H19年8月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 12 年 10 月 1 日		
ユニット数	3 ユニット	利用定員数計	27 人
職員数	26 人	常勤 10 人, 非常勤 16人, 常勤換算 20人	

(2) 建物概要

建物構造	木 造り		
	1 階建ての	1 階 ~	階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり	1,300 円	

(4) 利用者の概要(8月28 日現在)

利用者人数	27 名	男性 3 名	女性 24 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名
要介護3	5 名	要介護4	9 名
要介護5	6 名	要支援2	1 名
年齢	平均 87.7 歳	最低 70 歳	最高 100 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	石川内科医院 前川歯科医院
---------	---------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホーム周辺は秋の実りを感じられる稲穂に囲まれ、季節の移り変わりを自然に感じる事ができる。開設7年目を迎え、地域との連携・学習療法・音楽療法・ラジオ体操・日常生活で認知症が進まない支援をされている。母体の病院や関連施設の持つ様々な資質を活用し、特に薬の管理(用法・用量・副作用)に重点を置き確実に支援している。又、認知症の研修の実施や、職員は委員会に所属することでスキルアップに努め、家族が安心して預けられ、入居者ができる事を率先してできるよう、職員と一緒に互いの気持ちを理解しながら生活を楽しまれている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価を課題抽出の機会と理解され、積極的に取り組まれている。評価の時に様々な会話の中から直に実施できる事はその場で決定され、前向きな姿勢が窺える。昨年度の評価結果を真摯に受け止められ、できる事は実施されているが、改善計画シートの作成は無く、職員が会議を行った記録と同時に計画的に実施される事を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員が全員で評価表を基に話し合いをされ、結果を非常に詳細に記述され、自己評価の課題抽出に取り組み、前向きに努力されている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に家族の代表・市役所の代表・民生委員・施設長・介護支援専門員・職員・事務長の参加で開催され、入居者の状況報告や質疑応答を交え日中に開催されている。家族の代表からはホームの様子が理解でき非常に喜ばれており、今後ユニット毎の家族代表に関しても検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	行事の参加の呼びかけや、毎月「薫風」陽だまりの家新聞(第五十三号発行)によりホームの様子を家族へ伝えているが、家族の意見や要望が無い。施設長より家族アンケートの必要性のお話があり、早急に取り組まれることが期待される。是非、陽だまりの家新聞を活用され「気軽に意見・要望をお待ちしています」や「家族アンケートを実施します」等の記述をされ、ホームへ関心を向けられる取り組みを期待したい。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	母体の病院は地域の人の受診が多い。関連施設の夏祭りに参加し、入居者と一緒に商品販売をしたり、施設長が地域の会合に参加する事によって緊急時の協力を依頼している。又、駐車場を、地域の人々の不幸時や鬼火に貸す等、ご近所として顔馴染みの関係であり、自然体で交流されている。

2. 評価結果 (詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初から「認知症であっても一人ひとりが地域の中であたりまえに暮らしながら人間の尊厳を大切に生きていく」と理念を掲げ、住み慣れた地域で住民と関わりながら生活をする為の支援をされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	開設から7年目を経過しており、職員の入れ代わりは少なく、理念は理解され共有が図られている。又、常に入居者とは笑顔で接するように心掛けている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	関連施設の夏祭りに参加し、入居者と一緒に商品販売をしたり、施設長が地区の会合に参加し、緊急時の協力を依頼している。又、駐車場を鬼火や不幸時に貸す等自然体で交流をされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価を課題抽出の機会と理解され、積極的に取り組まれている。自己評価は職員が全員で取り組み、実施状況を詳細に記述されている。前回の評価を真摯に受け止め、職員間で話し合い、改善に向けた取り組みをされているが、改善計画シートの作成はなく、計画的に実施されていない。		外部評価を課題抽出に活用され、ホームの質の向上に向け、改善計画シートを作成され、期間設定を行い計画的に取り組まれることを期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に家族の代表・市役所の担当者・民生委員・施設長・支援専門委員・職員・事務長の参加で開催され、入居者の状況報告や質疑応答を交え実施されている。家族の代表者にはホームの状況が理解でき非常に喜ばれている。		

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所の福祉課とは、入居者の事務手続き等で行き来があり、密に連絡を取り、馴染みの関係である。		
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月「薫風」陽だまりの家新聞(第五十三号発行)に行事や各ユニットからのお知らせを載せ、家族に配布している。金銭管理は法人の事務所で集計され、ホームでは一人暮らしの入居者を中心に、2名の職員により、管理されており、2ヶ所による管理で明確さが不足している。		ホームと法人の連携を密にされ、収支状況を明確にされ、預かり金契約書を作成され、金銭授受(領収書を含む)に関する取り決めをされる事を期待したい。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱や苦情処理体制を明確にされており、行事への参加の声掛けを実施されているが、家族の意見は無い。機関新聞の活用や面会が少ない事から働きかけに工夫が必要である。		評価訪問時に、施設長より家族アンケートの必要性のお話があり、早急に取り組まれるとの事である。又、陽だまりの家新聞を活用され「気軽に意見・要望をお待ちします」や「家族アンケートを実施します」等の記述をされ、家族が関心を向けられる取り組みを期待したい。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3ユニット間を常勤職員を除く非常勤は常に交代をされており、全員がどのユニットの入居者とも馴染みの関係である。新人職員は新聞で紹介を行っている。又、夜勤専門の職員は申し送り、日勤職員と組むことで入居者へのダメージを防ぐ配慮がされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	関連法人で毎月勉強会(認知症に関する研修は年4回実施)を実施し、基礎知識テストや、職員は委員会に所属し、様々な学習をされ、スキルアップに努めている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者とは研修先で一緒になることや、ホーム開設における研修は受託されているが、交流までには至らない。関連法人内で切磋琢磨することで、現時点では必要性を感じる事はない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>母体の病院・老人保健施設・居宅介護支援事業所からの入居者・地域の人の紹介・利用者の家族からの紹介が多く、入居希望には家族や本人と面接やホームを見学に来られ、納得されて入居されている。母体が医療法人であることから、安心して入居されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は年長者であることを念頭に尊敬の念を持ち、入居者から昔話を聞いたり、一緒に過ごし、学び、支え合う関係が確立しており、笑顔で優しい関係が確立している。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>相談チャート・基本情報シート・バックグラウンド・アセスメントで生活歴を取られているが、それぞれの記入欄に空白があり、職員が共有を図る判断材料として活用する事は不十分である。</p>		<p>入居者の生活歴を把握する為の書類を統一され、入居時に家族や本人から知り得た情報の不足部分は、入居後に職員が関わりの中から記録される等、誰が見ても理解できるような日々のケアに活用できる記録の作成を期待したい。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員間で意見交換を実施し、計画は具体的で分かり易い実践可能な内容であるが、計画作成にあたって必要不可欠な本人と家族の希望の記述が無い。又、家族の同意が計画書の様々な場所に記名・捺印がされている。</p>		<p>計画作成にあたって入居者の主訴を把握され、家族の意見を取り入れて、課題に沿ったケアプランを作成されることが望ましい。介護計画の書式が入居者と家族の意見の欄が分かりにくく、家族の同意欄は記述場所が統一していない。分かり易い書式(意見欄を見易い場所と日付・氏名・捺印欄を設ける)を期待したい。</p>
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>現在入居者が安定しているとの事であるが、介護計画は短期・長期の欄はあるが一定期間(6ヶ月)で見直しをされ、ケア会議がどのように反映されているか書類では理解できない。</p>		<p>ケア会議を記録され(日付・題目・参加者)、入居者一人ひとりの状態に関して話し合い、削除・継続を決め、次の計画へ反映するために、モニタリング方法の充実が望まれる。</p>

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	行きつけの美容室へ同行や出張サービスの利用・関連施設でのリハビリ・医療連携・通院介助・医療処理・家族の宿泊可能等入居者のニーズに応える様々な取り組みがある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体の病院・眼科・歯科医・耳鼻科等かかりつけ医の確保があり、密接な関係作りをされており、適切な医療が受けられる取り組みがされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	かつて家族の希望でターミナルケアをされた事がある。契約書等で取り決めに明確にしていなかったが、入居者や家族から申し出があると、医師・職員・家族と話し合いをし、前向きに取り組みたいとの事である。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	玄関に個人情報保護に関する掲示をし、記録物を放置することなく注意を払っている。入居者には尊厳を持った関わりをし、言葉かけや対応はプライバシーに配慮しながら実施されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	此処での生活の主人公が誰であるかを理解し、事業所の都合に合わせることなく、居室で過ごす人・ホールで話しをする人等、入居者のライフスタイルに合わせ、柔軟な取り組みがされている。		

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作り・配膳・後片付け・お茶を入れる等、入居者と職員と一緒にされている。食事は一部の職員と入居者が一緒に、介助をしながら同じ物を楽しく食べられている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	各ユニットで入居者の半数が週3回入浴されており、日曜日を除いて毎日お風呂の準備がされている。決定日にこだわることなく、希望者や失禁時には入浴の支援がされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	役割として、洗濯物たたみ・犬の世話・食器洗い・テーブル拭き・モップがけ・生け花・読書を楽しまれ、入居者の皆さんができる事を積極的に笑顔でされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者の希望を取り入れた外出支援(ドライブ・散歩・日光浴・花見・墓参り・自宅訪問等)ができており、3ユニットが別棟で建設されている事から、近所を訪問する感覚で行き来されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	現在徘徊者は殆んどなく、職員の目配りで日中施錠は行っていない。周辺地域の人には日頃から、入居者についてご理解を得ており、協力的である。又、万が一を想定し、入居者の写真を準備されている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の立会いで年2回消火・避難訓練を実施されている。消防計画書を作成し、避難経路の確保や手順を決められているが、職員に周知徹底ができておらず、地震や水害の訓練は無く、非常時を想定した備蓄も取り組まれていない。		消防計画書は作成されたばかりであり、早急にケア会議等で職員に周知徹底をされ、あらゆる災害(地震・水害等含む)を想定した訓練や、非常時の備蓄(飲料水・当座の食料確保)を考慮し、地域の人々を巻き込みながら、取り組まれることを期待したい。

グループホーム 陽だまりの家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みや栄養バランスを考慮しながら栄養士と職員により献立を作成し、嚥下や咀嚼を考慮し、入居者の状態に合わせて美味しい食事が提供されている。水分量は時間を決め、全体量を把握しながら提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	3ユニットが全く同じ造りで、ホーム間は芝生や庭木が植えられ落ち着いた雰囲気である。広いリビングは明るく、季節の花が飾られており、騒音は無い。又、窓越しに見える田園風景等で季節の移り変わりを感じられ居心地が良い。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は畳であり、必要に応じて絨毯やカーペットが敷かれている。ベット・布団・筆筒・仏壇・馴染みの品々を持ち込まれた部屋と、全く何もない部屋と差がある。現在入居者は安定しており、行動異常は少なくなっている。		入居者の状況変化に伴い、居室作りを見直し、全く置けない状態から脱するために、入居者の好きな品(例、家族の写真・縫いぐるみ・花等)から始められ、温かみのある居室作りを家族と相談しながら試みられる事を期待したい。